

会長講演

PL 眼窩底骨折の診断と治療

小出良平
昭和大学医学部眼科学教室

眼窩底骨折は介達外力による眼外傷である。原因は手拳やボールなどによる眼打撲のために眼窩内圧が急激に上昇し、眼窩壁の中で比較的強度が弱い眼窩下溝鼻側部から眼窩内圧が吹き抜けて骨折が生じるものである。臨床所見は眼球運動障害や眼球陥凹で、そのため複視、眼球運動時痛、嘔気を症状とする。整復手術の適応と時期は受傷2週間後に症状が改善しない場合に、という報告もある。しかし、実際には下直筋が骨折部に嵌頓しているため、緊急手術を行わないと筋そのものが壊死をきたす場合や、画像診断で骨折を認めても症状がないため経過観察する場合もある。また、単純な眼窩底骨折ばかりではなく、眼窩内側壁骨折、あるいは眼窩底骨折と内側壁骨折を合併したり、眼窩縁や頬骨の骨折をともなう複雑な骨折も経験する。

本講演では、その機序、骨折部位、診断方法、術式、手術時期と予後について紹介したい。

【略歴】

昭和48年3月	昭和大学医学部卒業
昭和52年3月	昭和大学大学院医学研究科病理系薬理学修了
昭和52年4月	昭和大学医学部第二薬理学教室 助手
昭和53年4月	昭和大学医学部眼科学教室 入局
昭和55年8月	昭和大学医学部眼科学教室 専任講師
平成元年4月	昭和大学医学部眼科学教室 助教授
平成4年4月	昭和大学医学部眼科学教室 教授
平成11年4月	昭和大学病院附属東病院 院長就任
平成20年3月	昭和大学病院附属東病院 院長退任
平成22年4月	昭和大学 医学部長 現在に至る